

The Transformation of Risk

December 6, 2007

Steven M. Greer, M.D.

危機からの転換

2007年12月6日

スティーブン・M・グリア, 医師

([AEROのウェブサイトより](#))

序文

先進エネルギー研究機関, 有限責任会社 (AERO) は, 現在の世界的な環境とエネルギーの諸情勢を転換するであろう幾つかのクリーンエネルギー技術を確認している. この要約では, 地球温暖化, 大気汚染と人々の健康に関する諸問題, エネルギー資源の不足と争奪, 世界的テロ, 現在の配電網の旧式化と脆弱性といった進行中の危機が, いかにしてこれらの独創的技術により転換されるかを説明する.

技術の概観

1900 年以來, 電磁気理論の著しい進歩と革新的な電力発生技術の発見がなされてきた. これらの発展はその大部分が人々には知らされず, 無視され, あるいは能動的に抑圧されてきた. AERO はきわめて広範囲に及ぶ情報, 構造図, およびこの分野の専門家である科学者たちを確認している.

これらの技術は多数に上り, 他のいろいろな場所でその概要が示されているが, 要約すれば大きく 3 種類に分類される:

- **過渡的技術 (Transitional Technologies)**: これらは, 現在の内燃機関/化石燃料システムの効率を著しく向上させるシステムである. 例を挙げると, AERO ネットワークの幾つかの独立グループは, コンピュータ制御の電気分解システムを開発しており, そこでは乗用車またはトラックの発電機を電源として水からブラウンガス (水素と酸素の混合ガス) を発生させ, それを燃料噴射することにより, 排出の 80 パーセント低減と燃料効率の最大 100 パーセントの向上を達成している. このシステムを使ったあるシボレータホ・スポーツ多目的車は, 通常の 16mpg (マイル/ガロン) から 32mpg まで燃費を向上させていた. このプロセスは, 現在ベータテスト (公開直前テスト) の段階にある. 次のことに注目する必要がある. すなわち, 従来の乗用車とトラックによる汚染の大部分は, 内燃機関 (ICE) のきわめて低い効率に起因するということである. 従来の内燃機関は, ガソリンであれディーゼルであれ, 利用できるエネルギーの 20~30 パーセントしか動力に変換し

ていない。上記のシステムは、この効率を著しく向上させるものであり、燃料消費量を半分にし汚染物質を大幅に減少させる。

他の科学者たちは、多相電気信号を用い、きわめてわずかな電力で水をブラウンガスに電気分解することに成功している。このシステムは、負荷に電力を供給しながら閉じたループを形成する。（すなわち、外部負荷に電力を供給する発電機を回す一方で、その電気分解システムを稼働させることができる） 米国の平均家庭では、一日あたり 400 ガロンの排水が生じる。その大部分はグレイウォーター（比較的きれいな洗濯水や風呂水）であり、汚水ではない。だから、家庭の全電力需要はこのようなシステムで容易に賄うことができる。排出は水蒸気であり、それはさらなるブラウンガス発生のため回収、凝縮、再利用することができる。

これらのシステムはまた、石炭、ディーゼル、石油を基盤とする発電所でブラウンガスを燃料噴射することにも利用可能で、大幅な汚染の減少と効率の向上をもたらす。

●**新しい電磁気発電機 (New Electromagnetic Generators)** : これらは、我々の周囲の空間にあるいわゆるゼロポイントまたは量子真空エネルギーをうまく利用する特殊な回路を使った発電機である。1902 年にまで遡り、ニコラ・テスラとネイサン・スタップルフィールドは、空間のあらゆる部分の体積に含まれるこの周囲エネルギーに分け入る回転磁場を発生できることを実証した。その結果もたらされるものは、システムを稼働するいかなるエネルギーも必要としない、一つの脱配電網システムである。このいわゆる周囲 ‘フリーエネルギー’ は、存在することがこれまで科学的に実証されており、AERO はこれらのシステムを製作している最も卓越した科学者及び技術者たちと連携している。これらの技術は、現在の石油、ガス、石炭、原子力による発電システムのすべてを完全に置き換える潜在力を秘めている。それらはいかなる燃料も使用せず、汚染も発生しない。この装置が一旦製作され運転可能になると、エネルギーコストはゼロである。これらの装置を用いれば、配電網は不要となる。なぜなら、それぞれの家庭、企業、事務所などはそれ自身の発電能力を持つことになるからである。ナノ結晶物質を用いて半導体装置とすることが可能で、そうすれば電力を必要とするあらゆる物体に電力を供給することができる。

●**電気重力/磁気重力推進 (Electro-gravitic/magneto-gravitic propulsion)** : 1920 年代初頭に、T・タウンゼント・ブラウンと他の人々は高電圧システムを用いて実験をし、質量消滅またはいわゆる反重力効果をもたらした。記録文書が明らかにするところでは、1950 年代前半までにこれらのシステムは高度に機密化され、それが今日まで続いている。ジェーンズ・ディフェンス・ウィークリー (Jane's Defense Weekly) の研究者であり作家であるニック・クックは、この主題について徹底的な暴露を行ない、それをもとに “Hunt for Zero Point (ゼロポイントの探求)” という本を書いた。我々はこれまで、この新しい推進・エネルギー発生技術の背後にある物理学を理解する科学者たちを確認しており、今

やその技術を平和的なエネルギー利用と輸送のために発展させることができる。このようなシステムの採用は、ジェットエンジン、ロケット、その他の形態の航空宇宙輸送システムを置き換えてしまうだろう。このようなシステムで使用されるエネルギーは、ゼロポイントまたは量子真空フラックス場から得られるため、いかなる燃料積載も不要で汚染も伴わない。エネルギーコストはゼロである。

危機の転換

AERO が確認している種類の技術は**出来過ぎた話だ**と反論されるかも知れない。すなわち、それらは現在の石油、石炭、ガス、原子力による発電の構造基盤を完全に覆ってしまうだろう。

しかし、現在の世界情勢に関するあらゆる現実的な見方は、世界が漸進的変化によっては修正できない、多くの相互に関連する災害に向かって突き進んでいることを明らかにしている。それらの中には、地球温暖化；石油とガスの争奪がもたらす地政学的紛争；老朽化し急速に障害を起こしつつある配電網；先進地域と開発途上地域との広がる格差；石油に対する西側世界の際限なき欲望により引き起こされる中東・湾岸政策（これは婉曲な表現で‘戦略的国家安全保障上の利益...’とも呼ばれる）；‘身勝手なニンビー（not in my backyard）’の抵抗を受ける原子力発電所からの核廃棄物の増大する山々；などが含まれる。加えて、中国とインドだけで向こう 10 年間に推定 650 カ所で新規の石炭火力発電所建設が予定されている事実があり、それにより現在の温室効果ガスは倍増する。

たとえ上記の進歩した物理学による飛躍的技術のすべてが、2008 年中に大規模普及の準備ができていたとしても、世界の現在の化石燃料と原子力による構造基盤を置き換えるには、最低 10～20 年を要するだろう。

我々の分析では、最大の危険は何もしないこと - あるいはエネルギー発生と輸送についてただ漸進的な変化のみを導入し続けることである。風力、太陽、バイオ燃料、炭素隔離は賞賛されるべき善意の対策であるが、あまりにも効果が小さく、あまりにも遅い。だから、上記にその概要が述べられ、AERO の提案にもある新エネルギー科学に焦点を当てた強力な研究開発により、それは加速されるべきである。

皮肉なことに、今日人類に環境、社会、健康、および地政学上の途方もない難題が迫っているとき、最も危険な取り組みは‘慎重な政策漸進主義’である。

AERO は、18～24 ヶ月以内に市場投入できる解決策を生み出すため、独創的新エネルギー科学を十分に発展させる平和的マンハッタン型研究計画を提唱する。これはこの分野ですでに広範囲に及ぶ進展 - 難解であるため人々に認知されていないが - が達成されていることを考えると、実現可能である。

上記の過渡的技術（複数）は、現存の乗用車、トラック、発電所に取り付けるため直ちに公開可能である。それにより燃料消費と温室効果ガスを減らし、また全体的な汚染を大幅に減少させる。また、もしそれが確実に実施されれば、西側世界は現在の不安定な中東石油依存を 10 年を待たずにやめることができる。

それと同時に、石油、ガス、原子力発電、および集権的な配電網の必要性を完全に置き換えるために、この新電磁気発電機を段階的に導入し始めることができる。これらの新システムは燃料を使わず汚染も発生しないため、我々は現在の危機的世界情勢を持続可能で豊かな、経済発展が広くゆきわたった世界へと転換することができる。これらの技術の性質により、どの家庭も村も経費のかかる燃料なしに、あるいは送配電システムなしに、電化することが可能となる。多くの開発途上地域が旧式の地上通信線を回避し直接に携帯電話へと移行したように、彼らは大煙突や集権的な施設を必要とせずにエネルギー発生能力を増大させることができる。

現在の石油、ガス、石炭、原子力による電力のゼロサムゲームは、環境破壊と社会および経済の格差を確実にするだけであり、それはすでに危うい世界の地政学的情勢を一層不安定にする。地球上の 65 億の人々すべてが、内燃機関にもとづく乗用車とトラックを持つことも、発電のために石油、ガス、石炭、原子力を使用することも決してできないことは明らかである。実際に、現在の産業とエネルギーの秩序は、広範囲にわたる世界の貧困を必要とする - それは西側世界に対する怒りを引き起こし、世界的テロを煽り、急進化を助長することに役立つだけである。

上記のクリーンエネルギー技術を支援し、公開し、普及させるための果敢な決断を受け入れることが、我々の危機管理の、そしてさらに重要なことは、現在の世界的危機を平和で安定した持続可能な人類の未来に転換する、最良の希望である。

AERO は国際社会に対し、これらの有望な技術開発が成功のチャンスを持てるように、ネットワーク支援と研究費用負担への援助を行なうことを要請する。AERO は、地球温暖化の研究のため米国だけで使われる推定年額 50 億ドルの 1 パーセントに満たない額で、問題解決に大きな役割を果たすであろうこれらの先進的クリーンエネルギー技術の開発を完了させ、テストすることができる。

このことは、比較的小さな投資が人類に迫り来る重大な危機を大いに軽減し - そして人類を待ち受けるよき未来に真の新生の機会をもたらすことを意味している。

（訳：廣瀬 保雄）